

# 西東京市を歩く(1)

## 東伏見・柳沢・新町

- ★ 「天気晴朗なれど北風強し」 今年最初の散策の会は大変寒い日であったが、10名が参加していつものように和気藹々と始まった。
- ★ 東伏見駅前の道を南に進み、我々が母校・早稲田大学のSTEP22の前を通り、最初の信号を右折するとすぐ氷川神社がある。住宅に囲まれた狭い参道の奥に鳥居があり、小さな古い社殿が建っている。ここはかつて榛名権現社と呼ばれ、上保谷村下柳沢集落の鎮守だったが、1915年(大正4年)に神社合祀令により尉殿神社に合祀された。しかし氏子の強い希望により1942年(昭和17年)にさいたま市蓮見新田の村社を引宮したのが現在の氷川神社である。そして1984年(昭和59年)に榛名の神は正式に故地に戻った。境内には合祀以前の榛名大権現石造物群があり、市の指定文化財に指定されている。



氷川神社

- ★ 再び駅前に戻り、「昔ここにテニスコートがあった」とか「早大プールがあって夏はここで泳いだ」などと昔話をしながら、アイスアリーナの前を通り武蔵関公園に行った。冬の昼下がりの公園は殆ど人影もなく静かである。周囲より低いので風もなく、冬の陽が暖かい。鴨の群れがゆっくりと泳いでいた。池の西のはずれにある「あしの島」にはカワセミが棲んでいて、いつも大勢のカメラマンが望遠レンズを据えてカワセミが来るのを待っている。我々が通りかかったとき、池の中の枯木に一羽のカワセミが羽を休めていた。我々が「カワセミがいた〜!」とか「きゃ〜、きれい〜」とか大きな声を上げても飛び去ることなくじっとしていたので、いい写真が撮れた。



鴨の群れ



カワセミ (翡翠)

- ★ 武蔵関公園を出て石神井川遊歩道を歩く。東伏見稲荷神社前から武蔵関公園まで、石神井川の両岸にきれいなレンガ敷の遊歩道が出来たのは最近のことである。遊歩道沿いに早大の野球場（安部球場）、馬術部の厩舎、サッカー場などがある。この日は野球場もサッカー場も人影はなく、馬の姿も見えなかった。
- ★ 遊歩道が早大グランド通りを渡ると右岸に下野谷遺跡がある。今から約 5 千年から 4 千年前の縄文時代中期の遺跡で、南関東では傑出した規模と内容を誇り、2015 年 3 月に一部が国史跡に指定された。集落にはお墓と考えられる穴（土抗）群のある広場を囲むように住居や掘立柱建物が並ぶ「環状集落」の構造をしている。現在は竪穴住居の骨格復元、出土状況復元、地層状況を表す土層模型が建造されていて、地下には遺跡が保護されている。



下野谷遺跡公園



縦穴住居の復元骨格

- ★ 下野谷遺跡公園から住宅街の中のゆるやかな坂を下り、東伏見小学校を過ぎると間もなく東伏見稲荷神社である。関東地方の稲荷信仰者たちが、京都の伏見稲荷大神の分霊を奉迎して 1929 年（昭和 4 年）に創建された。東伏見という地名は神社が出来てからついたもので、神社創建の時に西武新宿線の駅名も上保谷から東伏見に改名された。家内安全、商売繁盛、諸願成就のご利益があるとされ、正月は大勢の初詣客で賑わう。



東伏見稲荷神社



- ★ 東伏見稲荷神社から伏見通りを南へ向かって坂を登ると千川上水にかかる関前橋である。千川上水は新町の境橋付近で玉川上水から分水され、豊島区西巢鴨まで総延長約 22 k m の用水路である。現在は使用されておらず、大部分が暗渠化されているが、東京都の清流復活事業により分水口から練馬区関町まで高度処理下水が流れ、流路に沿って遊歩道が整備されている。我々は関前橋から上流に向かって歩いた。上水沿いには三菱東京 UFJ 銀行健康保険組合の運動場や武蔵野大学のキャンパスがあるので雑木林が多く、武蔵野の面影を色濃く残っていて、散策には打ってつけである。武蔵野大学からは五日市街道を歩くことになる。五日市街道と武蔵境通りの交わる所・柳橋で解散となった。

写真と文 小島恕雄

参加者 金児利行、金子正男、桑田制三、小島恕雄夫妻、志賀 勉、原田一彦、  
水野 聡夫妻、中村仁美 以上 10 名

梅二輪 稲荷の鳥居 潜り抜け

猫柳 茨木のり子 旧宅に 金子 正男

冬の溪 日矢射る如く 翡翠飛び

冬晴れや 古代遺跡の 整備され 志賀 勉

先頭の 泳ぎのままに 鴨の群

蠟梅や 夕日水面に 江戸の影 桑田 青三

注 茨木のり子（1926～2006）は詩人、エッセイスト、童話作家、脚本家。  
主な詩集に『見えない配達夫』『鎮魂歌』など。  
晩年は下野谷遺跡近くの西東京市東伏見に住んでいた。



東伏見稲荷神社にて